

熊大通信

Kumamoto University
Campus Magazine
vol.90 2023 AUTUMN



[特集Ⅰ]

生命の本質を探る

発生研

Institute of Molecular Embryology and Genetics

[特集Ⅱ]

Kokai Story

Information
 「ハダカデバネズミ
 ～唯一無二の長生きネズミ～」展
 2023年7月12～18日
 葛屋書店 熊本三年坂

ハダカデバネズミの
 地下トンネルでの暮らしを再現した
 模型展示のほか、
 トークショーを開催。

当日の
 情報は
 こちら



熊本大学広報誌

熊大通信

Kumamoto University
 Campus Magazine
 vol.90 2023 AUTUMN

- 02 未来を拓くSDGs 長生きネズミの不思議を探究するデバ研。
- 03 特集I 生命の本質を探る 発生研
- 11 知のseeds 研究室探訪 文化の歴史の変遷を研究し、人間についての理解を深める
文学部歴史学科
世界システム史学コース 文化史学研究室
- 13 未来への羅針盤 登山家 岩永信雄
- 14 特集II Kokai Story
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ
- 23 キャンパス ミュージアム散策 薬とは。心身に効く薬とは。

[発行] 国立大学法人 熊本大学
 〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1
 【総務部総務課広報戦略室】
 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

[編集] 熊大通信編集委員会
 首藤 剛 / 委員長 広報担当副理事(大学院生命科学研究部(薬学系)准教授)
 宮尾千加子 / 理事(非常勤/広報・ブランディング・行政連携担当)
 松岡 浩史 / 大学院人文社会科学部(文学系)准教授
 松永 拓己 / 大学院教育学研究科美術科教育 教授
 濱田 絵美 / 大学院人文社会科学部(法学系)准教授
 小出 眞路 / 大学院先端科学研究部(理学系)教授
 佐藤あゆみ / 大学院先端科学研究部(工学系)准教授
 中村 五月 / 大学院生命科学研究部(保健学系)准教授
 倉内 祐樹 / 大学院生命科学研究部(薬学系)准教授
 濱洲 里美 / 総務部総務課副課長(広報戦略室長)

[制作] 株式会社カラースプランニング

*取材にあたっては、基本的な感染防止策をとった上で実施し、撮影時のみマスクを外しています。
 *記載の職名・学年等は、取材時のものです。



未来を拓くSDGs

熊本大学には、ハダカデバネズミ(以下、デバ)を飼育している日本唯一の研究があります。デバはその名の通り、体毛がほとんどなく、長い歯がトレードマークのげっ歯類で、最大寿命37年以上(一般のマウスは2～3年程度)と、とても長寿であり、しかもがんにかかりにくいことで知られています。大学院生命科学研究部 老化・健康長寿学講座の三浦恭子教授によると、研究室では約1,300匹ものデバを飼育。2023年6月には、熊本市動植物園の一部提供し、一般公開が始まりました。「アリやハチのように女王・王・ワーカーという役割があり、真社会性と呼ばれる分

業制の社会を形成する生物学的にも面白い生き物です」。

三浦教授とデバの出逢いは、かつて山中伸弥教授(現京都大学iPS細胞研究所)の下でiPS細胞の研究に取り組んでいた頃のこと。がん・老化耐性の仕組みを分子レベルで明らかにしたいと2010年に研究を開始しました。

そして2023年7月、デバの線維芽細胞に細胞老化を誘導すると老化細胞が細胞死することを発見した論文を発表。そこには、デバならではのセロトニン代謝制御と過酸化水素への脆弱性が寄与していることなどが明らかになりました。「現在、老化細胞を除去する“セノリティックドラッグ”の開発が世界中で進んでいますが、どのような老化細胞をどのタイミングで除去するかなどの課題があります。デバ特有の老化細胞を細胞死へと誘導するメカニズムをさらに研究することで、安全安心な“セノリティックドラッグ”の開発に貢献できると期待しています」と語る三浦教授。進化の過程で老化細胞除去機構を身につけたデバの“不思議かわいい”生態から目が離せません。

デバ研。

長生きネズミの不思議を探究する



大学院生命科学研究部
 老化・健康長寿学講座
 三浦 恭子 教授 Kyoko MIURA

2010年京都大学大学院医学研究科 山中伸弥研究室にて博士課程修了。医学博士。慶應義塾大学医学部生理学教室(岡野栄之研究室)などを経て、北海道大学遺伝子病制御研究所へ。2017年より本学同講座 准教授、2023年2月より現職。

「くまだいデバ研」の
 ウェブサイトはこちら



生命の本質を探る 発生研

Institute of Molecular Embryology and Genetics

熊本大学発生医学研究所(以下、発生研)は、日本でたった一つの「発生医学」の研究所です。「発生医学」とは、本研究所が設立された歴史の中で、ここ熊本大学で生まれた言葉です。発生研では、さまざまな分野の研究者が集い、日々、生命の謎の解明に挑んでいます。今回の特集では、発生研で生命の謎に挑む研究者たちに基礎研究の魅力とその思いについて聞きました。

「肥後医育ミュージアム」(P5参照)を訪れた丹羽教授。館内には熊本大学医学部の全卒業生の氏名が記されている圧巻のコーナーも

INTERVIEW

進化し続けて まだ見ぬ世界を探究する 発生医学

発生医学研究所長
幹細胞部門 多能性幹細胞分野

丹羽 仁史 教授
Hitoshi NIWA



“医学の目”で“発生学”を研究

発生とは一個の卵が個体になる全過程を指し、その過程を明らかにすることが、医学の発展に結びつくと考えています。つまり「医学」と、基礎研究としての「発生学」を橋渡しするのが発生研の特徴です。しかし、全ての研究が医学的応用を目指しているかといえば、そうではありません。“医学の目”を持ちながら発生学を研究し、そこに可能性を見出せば、応用につなげていく。あくまでも発生学ありきでやることで、それまで見えてこなかった医学とのつながりが見え、やがて人類に寄与する成果をもたらすと私は考えています。

生命の設計図を解き明かしたい

生き物は「卵が個体になる過程」をたどりますが、その過程はわからないことだらけです。哺乳動物の受精卵を比較すると、卵を見ただけではヒトなのか、他の動物なのか、見分けがつかないほど似ています。しかし、受精卵の中の遺伝子構造によって、間違いなくヒトになる。そして「それはなぜか？」という問いに、いまだ誰も答え

られないのです。

マウスの受精卵の遺伝情報はCD-ROM 1枚程度に収まるほどの情報量しかありません。それが全ての生物を形作る命の設計図なのに、それがなぜマウスやゾウ、ヒトになるのか、人類はいまだ解き明かすことができていない。我々は太古から伝わった1枚のディスクを前に、それを読み出す機械を持っていないのです。そこをなんとか解き明かしたいという思いで研究に取り組んでいます。

研究とは、自問自答の繰り返し

私はいろいろな臓器になることができる多能性幹細胞の謎を解き明かそうと、マウスのES細胞を使って多能性を維持する分子機構の解明に取り組んでいます。

研究は、自問自答の繰り返し。研究者は、自分が疑問に思ったことが、科学的な問いになっているかどうかを見極め、誰もが認めるようなアプローチで解き明かしていくことが大切です。しかし“十中七、八”はうまくいきません。仮説が間違っていたのか、技術や方法論が問題なのかを検証していくと、次の研究へのヒントが見えて

くる瞬間があります。「どこまで面白いと思えるか?」「失敗も面白いと思えるか?」が成功のカギともいえるのではないのでしょうか。

誰も見たことがない世界へ

発生研では、多様な分野の研究者による分野融合を進めています。マイクロデバイスを研究に使用することも多く、データサイエンスの領域でスキルを持つ人材など、多彩な専門家に門戸を開くことで、さらに探究できるエリアが広がると考えています。

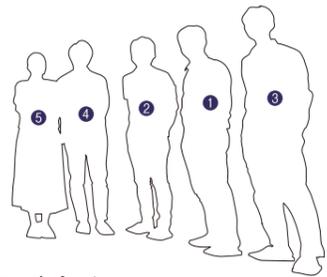
基礎研究の魅力は、誰も見たことがないものを自分で探し、いまだない答えを自分が見つけること。発生研では、さまざまな研究者がアカデミックに論理的に、誰も見たことがない世界を探究しています。研究がうまくいった時の快感は一言では言い表せません。だから基礎研究はやめられないんです。

発生研の詳細は
ウェブサイトでもcheck!



発生研の若手研究者が語る だから**基礎研究**は やめられない!

「肥後医育ミュージアム」(熊本大学本荘キャンパス)には、
本学を含めた熊本の医学教育の歴史が展示されています。
本特集では、生命の謎に挑戦し続けている、新進気鋭の5人の研究者たちが
同ミュージアムに集い、発生研の歴史や伝統に触れるひとときを企画。
基礎研究に魅せられた研究者の日常と研究にかける思いを
座談会でお届けいたします。



コーディネーター:

① 発生制御部門 染色体制御分野
石黒 啓一郎 教授 Keiichiro ISHIGURO
精子や卵子がつくられる際の減数分裂を研究

パネリスト:

② 器官構築部門 筋発生再生分野
小野 悠介 教授 Yusuke ONO
筋肉の大きさや再生を制御する仕組みの研究

③ 幹細胞部門 胎盤発生分野
岡江 寛明 教授 Hiroaki OKAE
胎盤の発生と機能の仕組みを分子レベルで研究

④ 発生制御部門 細胞医学分野
日野 信次郎 准教授 Shinjiro HINO
栄養などの環境因子が病気になる仕組みを研究

⑤ 幹細胞部門 組織幹細胞分野
古賀 沙緒里 助教 Saori KOGA
全血液をつくる造血幹細胞の発生と再生の研究

オブザーバー:

熊大通信編集委員会委員長
大学院生命科学部(薬学系)
首藤 剛 准教授 Tsuyoshi SHUTO

熊大通信編集委員会委員
大学院先端科学研究部(理学系)
小出 眞路 教授 Shinji KOIDE



多彩な分野から発生医学へ 研究者のはじめの一步

石黒 初めて「肥後医育ミュージアム」を訪れて、熊本の医学教育の歴史の延長線上に私たちの研究があることを感じ、感慨深いものがありました。発生医学研究所(以下、発生研)の歴史も刻まれているこの場所にお集まりいただいた、現在活躍中の若手研究者の皆さん、基礎研究の面白さや研究者となったバックグラウンドなどをお聞かせください。

小野 私は、小・中学校から大学までサッカーをやっていたことがきっかけで、大学で運動生理学などを学び、「筋肉のためにはどのように運動やトレーニングをすればよいか」「壊れた筋肉はどのように再生するのか」などの素朴な疑問をちゃんと基礎から理解したいと、この研究に入りました。

岡江 私は、生き物が好きだったことが、やっぱり大きいかな。ネズミの初期発生を

研究していたのですが、解剖している時にふと胎盤が気になり、胎盤の発生や機能に関する今の研究に入ったという感じです。面白いこと、面白いものを多角的なアプローチで解いていくところが、基礎研究の面白さだと思っています。

古賀 私は、小学生の時に「新しい薬を創って、治らない病気をなくしたい」と心に決めて薬学部を目指し、学生時代も「早く研究室に入って研究したい」と思っていました。

石黒 薬剤師になる道もあったと思いますが、なぜ基礎研究を目指したんですか?

古賀 「今ある薬を患者さんに届けることも大切ですが、私は今ない薬を作りたい」という思いが強かったです。実験がとにかく楽しくて、飽きることはありません。毎日が新鮮で、常に新しいものに触れ合えるし、何歳になっても学べる。私にとって研究は、変わることなく楽しいものなんです。

石黒 日野さんは農学部出身ですね、な



発生制御部門 染色体制御分野
石黒 啓一郎 教授
Keiichiro ISHIGURO

Profile
1995年、東京大学理学部生物化学科卒業、2000年東京大学大学院理学系研究科で博士号取得。その後、Harvard medical schoolポスドク、東京大学分子細胞生物学研究所助教、慶應義塾大学医学部特任講師を経て2016年より発生研・染色体制御分野で研究室を主宰。

Research & Message
生命科学の研究は実験とその結果に基づく考察の科学。数学や物理のような理論的な学問とは違って、何かを知りたいという強い知的探究心とちょっとした運があれば、凡人でも新しい学術的発見に貢献できるチャンスがある学問だと思います。



器官構築部門 筋発生再生分野
小野 悠介 教授
Yusuke ONO

Profile
2002年山梨大学教育人間科学部卒業、2007年東北大学医学系研究科にて博士号取得。ロンドン大学、国立精神・神経医療研究センター、モナッシュ大学にてポスドク。2012年長崎大学助教、講師、准教授を経て、2018年から発生研・筋発生再生分野を主宰。

Research & Message
筋肉(骨格筋)の大きさを調節する仕組みや損傷から再生する仕組みを明らかにして、病気の予防や治療の開発につながる基礎研究を行っています。研究の醍醐味は、予想外の実験結果により、点と点が繋がった瞬間。

研究紹介はこちら





幹細胞部門 組織幹細胞分野

古賀 沙緒里 助教
Saori KOGA

Profile

2004年熊本大学薬学部薬科学科卒業、2009年同大学大学院薬学教育部博士課程修了。博士(薬学)。同大学中核的研究機関研究員、九州大学大学院医学研究院にて博士研究員、助教を経て、2017年より発生研にて助教。

Research & Message

全ての血液細胞をつくる造血幹細胞が私たちの体の中でどのように発生するのかを解き明かし、その過程を試験管内で再現することを目指しています。最終的には、試験管内で造血幹細胞を作り、再生医療へとつなげたいと考えています。

研究紹介はこちら



幹細胞部門 胎盤発生分野

岡江 寛明 教授
Hiroaki OKAE

Profile

2004年に東京大学理学部生物化学科卒業、2010年東京大学大学院理学系研究科修了。マウスの発生工学に関する研究で学位を取得後、2010年より東北大学でヒトの初期発生に関する研究に従事。2023年より発生研・胎盤発生分野を主宰。

Research & Message

胎盤は胎児の生存や成長に欠かすことのできない大切な臓器です。私たちの研究室では、胎盤の発生や機能がどのような仕組みでコントロールされているのかを、分子レベルで研究しています。世界中の研究者と交流できる点が、研究者の醍醐味の一つだと思います。

ぜ研究者の道へ？

日野 私も古賀さんと同じく研究自体が好きですね。自分で調べて、自分で考えた仮定を、実際に自らの手で確認するのは、研究者の醍醐味ですから。

石黒 何が日野さんを研究の虜とりににさせたんですか？

日野 研究は日常生活だから、何か決定的な出来事があったわけではなくて、研究できる日常が楽しかったし、それが自分になじんだということかなと思います。

石黒 私は、実験をやっても結果が出ないし、こんなで博士になれるのかとか就職できるのかと、不安になった時期がありました。皆さんは思うように研究が進まず、自分を見失いかけた経験はありますか？

小野 もちろん失敗は数え切れないほどあります。それを踏まえて、複数の研究を並行して走らせるなどして、うまくいかなかった時には別の研究で精神的なバランスを取るような工夫は大学院の頃からやりました。

岡江 私も結構、いやもう常に悩んでる感じはありますね。でも、運や周りの人に恵まれて、支えられていると強く感じています。

与えられたテーマはうまくいかない自分の研究は感性で探す

石黒 皆さん、研究室では、どのような指導体制ですか？研究室ごとにカラーがあるのではないかと興味があります。

古賀 学生時代に所属していた研究室では、4つのグループがあって、博士が修士を、修士が学部生をと、順番に指導する体制でした。

日野 先輩から教えてもらうのは、どこでもありますね。最初研究室に入ると、研究テーマを書いた紙を渡されて、選んだテーマによって、博士をはじめとする縦割りで教えるところもありました。

小野 学生の時は何やっても良いって感じてでしたね。何をやりたいかを先生に相談するのですが、調べれば調べるほど、やりたいことがどんどん変わってしまい、先生にあきれられたことがあります。その経験から、私の研究室では、テーマを複数用意して選んでもらうようにしています。もし興味がなかったら違うテーマを考えます。

岡江 個人的な経験からいうともらったテーマって、だいたいうまくいかないんで

すよね。それで私の研究室では、大まかにテーマを伝えますけど、細かい実験に関しては、本人と相談しながら進めていく。ある程度自由に選択できる環境です。

石黒 「与えられたテーマは、うまくいかない」って、これは研究あるあるですよ。

首藤 最初にテーマを与えられたとしても、最後は自分の感性で見つけてきたものやるところに、研究の面白さがありますね。

日野 でも、与えられたテーマを言われた通りにやってた人は、ここにはいないと思うんですよ。

首藤 内的な動機があって、自分で研究を展開していく。やっぱり研究者になる人たちって、そういう人々じゃないでしょうか。

小野 研究者ってちょっと遠い存在だと思われがちですが、身近で、普通の人が研究しているんですよっていうのを若い世代に知ってもらえたら、研究の道に入りたい人が増えるかもしれませんね。

研究者の神髄とは 尽きない興味と探究心

石黒 実際に研究者になって、皆さんイメージ通りでしたか？

小野 研究費を採るというプレッシャーはありますね。大学院の時に、試薬を1本買うのに研究費がなくて、「3カ月待ってくれ。そしたらお金が入ってくるから」って教授に言われたことがあります。その大変さは、当時理解できませんでした。

石黒 私は、生殖細胞で使う抗体が売られていなくて、自分で作って研究した時期がありましたよ。

首藤 「なければ作る」ですね。

日野 最近は、インフォマティクス(情報科学)思考の若い人が多いですね。泥臭い実験よりも、計算で多くの情報を導き出す人が、最近増えています。

首藤 研究者の定義自体が、昔と今で変わってきたと思いませんか？

日野 結果を出さなきゃいけないサイクルが早くなってるような気がします。これはいろんな方法論の合理化が進んでることですね。いい抗体ができればそれだけでうれしいし、若い頃は日々の小さな“うれしい”の積み重ねで、メンタルを維持していました。

石黒 私は助教から一度、ポスドクに戻ったことがあるんですよ。就職活動がう

まく行かなくて、いよいよ任期が残り半年ぐらいになり、ポスドクになると決めました。どこかの企業で会社のために研究する道もあるんでしょうけど、それは自分のために研究できる職業とはちょっと違う。今思えば、あの時ポスドクの道を選んでよかったと思います。

首藤 「自分のために」ってなんかいいですね。組織のためにとか、人々のためにみたいな話をよく聞きますが、やっぱり研究者の神髄に、自分の興味は重要ですから。

石黒 こういう職業ってあんまりないですよ。プロフェッショナルであり、自分の好きなことをやっていっていい職業。多分、研究者以外には当てはまるものないんじゃないかな。ドイツの社会学者であるマックス・ウェーバーの著書「職業としての学問」に「学問を続けるのは『僥倖きょうこう』によって支えられて」という一文があるんです。「同僚や後輩が職を得て昇進している中で、自分はそうなれないとしても、『僥倖』とは運だと割り切り、学問に没頭できるのが学者としての資質だろう」と書いてありました。自分が助教からポスドクになった時に、心の支えにした思い出があります。

首藤 その状況で自分に資質があるって思い続けるってことはなかなか難しいですね。今、学生の皆さんに将来の話を知ると「まだやりたいことがわかりません」という人が多い。そういう若者たちに対して、先生方からどんなことを言ってあげたいですか？

石黒 まずは飛び込んでみる、ですかね。

古賀 最初に楽しい実験に触れ合えば、きっと続けたい。最初に触れる時がすごく大切な気がします。

小野 私は、研究者という職業の選択肢を教えてもらったことが、きっかけの一つでした。もう一つは、運動生理学の実習で書いたレポートをすごく褒められたんですよ。そこで、何か勘違いした(笑)。

首藤 早めの成功体験で、いい意味での勘違いですね。言葉として面白い。ロールモデルに出会えたこともよかったですね。

子育てしながら研究できる 発生研のダイバーシティ

石黒 発生研では、働きやすい環境整備や男女共同参画などにも取り組んでいます。子育て中の古賀先生、率直な感想

をお願いします。

古賀 発生研には、キッズルームや授乳室があり、いざという時には職場に子どもを連れてくることのできる安心感があります。

石黒 発生研は、風邪をひいて保育園に預けられない時など、子どもたちを研究室のメンバーがお世話したりしていますが、それができる研究所は他にはないでしょうね。

日野 先週、フランスから来客があって、発生研にはキッズルームや授乳室があると言ったら驚いていました。フランスでもそういうところはないそうです。

石黒 発生研では以前、女性教員の率が高かったんですよ。そこで授乳室を作ろうかっていう意見が出てきたんじゃないかと思っています。

首藤 それはやっぱり「発生医学」というフィールドが女性研究者にとっては魅力的なフィールドだからではないでしょうか。

古賀 実験って自分でスケジュールを組めるので、子どもが熱を出しても、自分で実験を再調整できるので、研究職は女性にとっても働きやすい職業だと思います。授業参観なども、午前中に実験を仕掛けて行くことができますし。

石黒 そういった意味では、研究職というのは、本当に自由。子育て世代にとって、働きやすい職業だといえますね。

古賀 私は、保育園の延長保育は利用しないって決めて、その分、昼間にぎゅっと実験をつめていました。この日は遅くなるっていうときは夫と調整したり、土曜の朝も子どもがゆっくりしてる間に大学に行って用を済ませれば、一日中一緒に過ごせるし、工夫次第なんです。

日野 それは熊本のまちの規模感、職場と家と保育園・学校がかなり近い圏内におさまってるから。都心だとなかなかそういう生活は難しいでしょうね。

CARDを有する熊大の強み 発生研を選んだワケ

石黒 研究について考えてみると、使える実験機器とかがあれば、東京にしようが熊本にしようがあまり差はありません。しかし、他大学にはない熊本大学の大きな強みとして「動物資源開発研究施設」(以下、CARD)が挙げられますね。歴史的にも最初に遺伝子改変マウスを提供したの



発生制御部門 細胞医学分野

日野 信次朗 准教授
Shinjiro HINO

Profile

1998年京都大学農学部卒業、2004年京都大学大学院医学研究科修了。ノースカロライナ大学を経て発生研へ。

Research & Message

栄養をはじめとした環境因子がヒトや動物の体質(太りやすさなど)や生活習慣病リスクに結びつく仕組みの解明を目指しています。特に、私たちの食事の内容が遺伝子レベルで記憶される点に注目しています。研究職は、自分の価値観に則して仕事の内容を決められるのが◎。興味を持ったことは損得を考えずにやってみると、結果は後からついてきます。

Message



大学院先端科学研究部(理学系)

小出 眞路 教授
Shinji KOIDE

医学の分野でも熱力学が注目されているという話を聞いて、近年のブラックホール研究においても、熱力学の汎用性が認識されていて、学問は分野を越えてつながっているのだと感じました。研究者としては業績を上げて論文を書かなければならないという課題もありますが、今後も発生研には生命の本質に関わるような研究を期待しています。

Profile

熊大通信編集委員会委員。オブザーバーとして参加。専門は、プラズマ物理学の理論。巨大ブラックホールの近傍から噴出する高速宇宙ジェット



「肥後医育ミュージアム」で発生研の歴史などを体感した後に、分野を超えて語り合う研究者たち。石黒教授のコーディネートの下、それぞれの立場から多様な意見を交わす意義深い座談会となった。展示された史資料に感銘を受け、「今後は来客をご案内するなど、同ミュージアムを積極的に活用したい」という声も上がった

がCARDで、ここから理研をはじめ、日本全国に研究者やスキルが広がっていきました。皆さんはなぜ発生研を研究の場にしたのですか？

小野 私にとって、発生研は憧れの研究所で、ここで働きたいという思いは、ずっと前からありました。入ったからには発生研を盛り上げて頑張りたいなと思っています。

岡江 私は、研究を続けさせてもらえる場所があったらすごくラッキーだなという気持ちで就活していたんです。来てみて思ったのは共通機器の充実は本当にすごい！一番驚いたのは、英語が半公用語みたいになっていることでした。

日野 私は「エピジェネティクスをやるなら発生研の中尾研究室」っていうほど、日本でも第一人者なので中尾先生の下で研究をしたくて門を叩きました。

発生医学の進歩 ミニヒューマンが生まれる！？

石黒 オブザーバーとして参加いただいている熊大通信編集委員会委員の小出先生は、プラズマ物理学の研究をされていますね。

小出 現在プラズマの研究をしていますが、元々発生学には興味があります。例えば、DNAからタンパク質が合成される

流れの概念「セントラルドグマ」は、現在も信じられているのですか。

石黒 現在では「セントラルドグマ」だけでは生命現象として説明がつかない、さまざまなメカニズムが明らかになってきています。例えば我々の分野という相転移は、熱力学の概念。相転移が生命現象でとても大事だと、7～8年ぐらい前からこぞってみんなが研究を始めて、流れが変わってきています。

首藤 発生や生物の学問分野は、研究者が追究していけばいくほど、科学の本質や生命の本質にたどり着く。それが発生学の面白さなのかもしれませんね。

小出 発生学ってそういう魅力のある学問だと思うんですよ。生命の本質を研究されてると思うとすごく興味があるんです。

石黒 生物学は覚える学問だといわれているんですが、実際にはロジックとか論理とかに基づく科学。「生物、全く知りません」っていう人でもそういうロジックをちゃんと理解して使いこなすようなセンスがあれば、専門的な知識はなくても、むしろ研究者向きだといえるでしょう。

小野 発生研は、生命の原理とか根幹を担うような研究が行われています。生殖とか、胎盤もそうですし、生命が生まれるところから研究している先生が多い。筋肉はただ動くだけじゃなくて、脳や肝臓、腎臓

などの臓器にいろいろなシグナルを送っているんです。筋肉という生命の個体としての位置付けを捉え直すことなどが必要だと考えています。

小出 これまでは脳が全てをコントロールして、他の臓器はしもべのように動いているような印象でしたが、違うということですね。

小野 そうですね。腸からも脳に情報はいきますし、筋肉からも脳にも伝わっていることが分かってきました。臓器連関の視点が重要です。発生研の魅力の一つは、分野が異なる先生方からいろんな刺激を受けて、自分の研究にフィードバックできる環境だと思っています。

岡江 近年、「生命をつくる」研究が、本当に現実のものになりそうな段階になってきました。iPS細胞ができてから細胞レベルで実現可能になっています。だからもう精子もいらなし、卵子もいらなし、もうお母さんの子宮さえいらなくて。研究室の試験管の中だけで個体ができるっていうのは、実現可能な未来なんです。

首藤 まさに生命の本質みたいなものに関わるような研究ですね。それを自然にやっつけている人間の体ってすごい！

小野 発生研のメンバーがみんな集まって、それぞれの研究をつないでいくと、小さい人間、ミニヒューマンかなんかできる

んじゃないかな？

石黒 そういう時代が来るかもしれませんがね。

小出 試験管内で個体ができるになれば発生過程の観察が進み、一つの受精卵から個体ができるまでの過程がたくさん物理的な素過程から成り立っていることが明らかになるかもしれません。そうなれば発生の過程を計算機でシミュレーションすることができるはずで、実際に実験しなくてもよくなります。しかし、生命は単なる物理過程の連鎖でしかないのでしょうか。

石黒 興味深いですね。もしかしたら、将来何年後かに発生研にもAIを活用してそのような研究を行う研究室ができるかもしれませんね。

日野 合成生物学では、分子から細胞を作ろうとしています。現時点では、細胞を細胞たらしめる最低限の要件は何かを定義していく段階です。まだ動物や植物の真核細胞ではできなくて、あくまでも微生物の原核細胞での話なんです。遺伝子が400個あれば、細胞の状態になるといわれています。将来本当にそのような方法で個体ができるかもしれませんね。

“役に立つ科学”と “役に立たない科学”

石黒 いわゆる「役に立つ科学」(目的指向型で、比較的近いうちに社会実装が見込める研究)と「役に立たない科学」(現時点では、社会に応用できるかどうか分からない研究)についてどう考えていますか。それぞれ分けられるのかどうかとか、どちらに重点を置くべきだとか。私は、基本的に研究は自由であるべきだと考えているのですが。

小野 私が大学院で筋肉の研究を始めた当時、筋肉は重要な臓器とは認識されておらず、「なぜ心臓をやらないの？心臓も筋肉だし、そっちの方が大事でしょ？」という時代でした。自分の研究が応用につながればうれしいものですが、「知りたい！面白い！」というのが研究のモチベーションですね。

岡江 私は役に立つ科学を目指すというよりも、自分の興味がある研究をしたいと思っています。研究費を集めたり、研究者として必要なことはやりますが、それはあくまで自分の好きな研究をするための一つの要素に過ぎないですね。

古賀 私は、臨床に貢献したいという思いがあるので、新薬を世に送り出すことが重要なモチベーションです。実際にやっていることが叶えたい夢に繋がっている、今の研究はすごく幸せだと感じています。

日野 個人的には基礎研究と応用研究の境目って考えたことはありません。応用要素のない基礎研究はないし、基礎要素のない応用研究はない。その先にある実用のラインに乗るかどうか、研究の次のフェーズが応用を左右するのではないかなと思っています。農学部出身として一つ気がかりなのは、応用の形として何か医療に役立たないといけないう縛りが強い気がするんですよ。でもそれ以外にも、例えば将来、確実に食料危機は訪れます。異分野の社会課題もある中で、基礎生物学がそういう食料生産に役立つことをまだ世の中に認めてもらっていないようで、それがとても残念ですね。

石黒 私たちは同じ研究所で研究をしていますが、こうして集まって語り合う機会はなかなかないので、一人ひとりの思いを聞いて、さまざまな気付きがありました。皆さん、ありがとうございました。



肥後医育ミュージアムの情報はこちら



熊大通信89号「キャンパスミュージアム 散策」でも肥後医育ミュージアムをご紹介します



①丹羽所長をはじめ、初めて訪れた研究者たちにとって、熊本大学の医学教育の原点を知る機会となった／②発生研の系譜をまとめた資料に見入る石黒教授と古賀助教／③古い顕微鏡や実験機器を見ることができる／④前身である「体質医学研究所」の様子。この建物は、「医学部附属遺伝医学研究施設」時代にも使われており、当時大学院生として在籍していた丹羽所長が感慨深く見入っていた

Summary



熊本大学副理事
(広報担当)
大学院生命科学
研究部(薬学系)
首藤 剛 准教授
Tsuyoshi SHUTO

発生研とは、いろんな視点を持った人が集まったプラットフォームであり、発生医学という分野のオールジャパンを集めたワンチームであることを皆さんが教えてくれました。そこで働く研究者の皆さんは、決して特殊な方々ではなく、誰もが持っている「自分なりの視点・感性・知的探究心」を具現化することで今を生きていると感じました。研究者って改めて魅力的な職業だなと、再認識しました。今後も発生研から世界へ発信を！

Profile
熊大通信編集委員会委員長。薬学研究を長年実施し、肺・腎臓などの病気の薬や、健康力を高める食品などの開発につながる研究を推進。大学発ベンチャー取締役社長を兼任し、社会実装化の応用研究も展開中。

文化の歴史的変遷を研究し、
人間についての理解を深める



熊本大学文学部歴史学科世界システム史学コース

文化史学研究室 Cultural history laboratory

政治、経済、アート、思想など、
人々のあらゆる活動・文化の歴史的変遷を追究し、
「人間っていったい何なのか？」を探究する
文化史学研究室を訪ねました。



新井 英永 教授
Hidenaga ARAI

ヨーロッパでは、イタリアの未来派、ドイツの表現主義、フランスのシュールレアリスムなどさまざまなモダニズムの運動がありました。こうした動きを踏まえつつ、D. H. ロレンスを中心に20世紀前半のイギリスモダニズム文化・思想を研究しています。



鈴木 啓孝 准教授
Hirota SUZUKI

明治時代に印刷された新聞や雑誌に思想家が発表した言論を中心に、当時人気を博した版画や写真などの視覚メディアと、方言・標準語・学校唱歌などの聴覚メディアも素材としながら、近代日本ナショナリズムの研究をしています。

研究室に入る2年時に、授業の参考文献として活用できるお薦めの書籍リストを「読書案内」として学生たちに紹介



セクシャリティー、エスニシティー、
マイノリティー……
さまざまな文化的視点で研究

ヨーロッパのモダニズム文化・思想を研究する新井教授と、日本ナショナリズムを研究する鈴木准教授の下で、さまざまな国や地域にまたがる文化と、国や地域内部のサブカルチャーについて研究します。学生は、明治時代の日本におけるビールの受容、19世紀フランスを生きた男装女性たち、植民地朝鮮と甲子園野球など多様なテーマで、文字資料、画像、映像、音声などを活用して考察します。



1984年からの卒業論文を年度ごとにアーカイブしており、学生たちは自由に参照できる。先輩たちの研究を読み解くことで、研究テーマの歴史や変遷を知り、考察を深められる貴重な資料



大学院社会文化科学教育部
博士前期課程文化学専攻2年
塚本 優子さん
Yuko TSUKAMOTO

フランスの娼婦について学びを深め
女性の貧困問題へアプローチ

フランスの歴史学者アラン・コルバンの思想を軸に娼婦について研究し、現代日本における売春や女性の貧困問題への考えを深めています。私は2017年に本学を卒業後、社会人生活を経て、再び本研究室で学んでいます。研究室には、社会人経験者や留学生など、さまざまな経歴の人がいて、各自の研究テーマも多様なので、他学生の研究に触れることができ、自分が想像していなかった世界への視野が開けます。将来は働く女性を社会的にサポートする仕事がしたいですね。



文学部歴史学科
世界システム史学コース4年
泊 慎太郎さん
Shintaro TOMARI

近代における茶道の実態を解明したい
思いもよらないつながりにワクワク！

私が本研究室を選んだ理由は、2年生から興味のあるテーマで研究を始めることができるからです。私は茶道をしていますが「なぜ流派によって、男女のお点前が異なるのか」などの疑問が生まれたことをきっかけに、近代における茶道の実態を解明する研究をしています。同級生の研究テーマも、絵画、旅行、ファッション、エリート意識、オカルトなどさまざま。議論していると、関係がないと思っていた物事のつながりが見えてくることもあり、面白いと感じます。



2・3年生が共同で1冊の論文集「課題研究報告集」を仕上げる。2年生にとって、約1万2000字もの論文作成は大変だが、上級生から指導を受け、論文作成の技術を高める機会にもなっている

歴史的変遷という観点から
身近な文化を探究する
学問領域

文化史学



書庫にある蔵書。「郵便報知新聞」などの新聞資料や、雑誌「青鞥」と平塚らいてうの個人全集といった大型本が並ぶ。学生の研究に必要な書籍の主なもの研究室で購入。卒業後に新たな蔵書へと加わる

seedsの未来

“無限の過去”から“記録されるべき過去”を取捨選択する歴史家が、豊かな経験と深い自己省察を重ねることで、文化史はよりよく成立します。「国立国会図書館デジタルコレクション」など、さまざまな資料を活用し、「歴史家としての主観を構築する」ことを目指します。



研究室をのぞいてみよう!!

私たちが
研究室を案内
しています。
見てね!

「熊大通信」連動
知のseeds
研究室探訪の
動画はコチラ!



未来への 羅針盤

the compass to the future



THE FIFTH HIGH SCHOOL KUMAMOTO (三其) 校學等高五第 (景百本熊)

「僕の方の教室はこの向側*です」と書き込みのある五高本館の絵葉書がある。家族に宛てた本文には「美術の秋も来て東都では二科や院展等で大分賑って居る様ですが都隔てた当地ではとんとそんな気分はありません」と、不平とも泣き言とも取れる文面が綴られている。

差出人は1917(大正6)年9月に入学したばかりの岩永信雄である。神奈川県出身の岩永は中学時代から山歩きを始め、五高では山岳部の創部メンバーとなって、その活動に力を入れた。在学中の1918(大正7)年に「日本山岳会」に入会し、「龍南」第176号(大正10年2月発行)の「龍南会沿革史 山岳部」の執筆を担当している。

東京帝国大学に進学した後も、山岳熱は衰えることを知らず、「スキー山岳部」の創部に参画、本州の急峻な山々を踏破し、1924(大正13)年から1925(大正14)年にかけて、冠松次郎、沼井鐵太郎らとともに、当時秘境といわれた黒部峡谷に挑み、

黒部本流完全遡行を成し遂げた。彼の登山歴は50年以上に渡り、第一線の登山家として記録されている。

一方、大学卒業後に就職した保険会社は、山へ行く時間を捻出するために退職し、1931(昭和6)年に会社を設立した。生業とは言うものの、その会社「ウォーガン工業所」は、当時広まっていたコンクリート建築の外壁仕上げに関する「『コンクリート』壁又ハ其他ノ『セメント』素地面ノ化粧方法」の特許を取得し、1932(昭和7)年に初仕事として、著名な建築家・長野野平治が設計した「大倉精神文化研究所」(現 横浜市大倉山記念館)の外壁仕上げ工事を成功させた。以後、この会社は業界のパイオニアとして隆盛を誇ることになる。

趣味、本業の区別なく究極まで突き詰めようとした彼の一生は、五高卒業生の間で「痛快な」と讃えられている。

*原文ママ

登山家 岩永信雄

文／藤本秀子(五高記念館)

[特集II] Special Feature

Kokai Story

熊本大学黒髪キャンパスから1kmほど西側にある「子飼商店街」。加藤清正が城下町をつくるずっと前、一説には奈良時代から交通の要衝として栄えたともいわれています。400mほどの通りには、八百屋、肉屋、惣菜屋、食堂、衣料品、文房具店など人々の生活に欠かせない店が軒を連ねる、熊本を代表する商店街です。店主とお客が会話を交わして買い物を楽しむ様子は昭和レトロな雰囲気。今でも、店主となじみ客が会話を交わし人々の暮らしの息遣いを肌で感じることができる場所です。そんな小さな商店街は、熊大の学生たちの暮らしにも身近なところ。「テストどうやった?」

「ごはん食べよるね?」

お母さんのような店主の声掛けに励まされるという一人の学生に出会いました。学生割引のある飲食店や、野菜をおまけしてくれるおばちゃんなどなど、3年生にもなれば、商店街の店主たちと顔見知りなのだとか。「ここは第二の故郷、いや実家のリビングみたいなもんです」と彼は笑って、キャベツを片手に歩き出しました。

そんな「子飼商店街」の魅力を探して筆者も商店街を歩いてみました。





①一人でも多くの人の役に立ちたいと、ボランティアサークルでも活動する法学部法学科3年・山本 祐貴さん/②学生たちは、全て手作りの看板やツールを工夫し、キッズコーナーを運営している/③スーパーボールすくい人気のコーナー/④ユニークなシャッターが商店街を彩る/⑤キッズコーナーに行列ができた! 老若男女でにぎわう100円笑店街/⑥「学生さんたちのおかげで商店街が活気づくよ」とほほ笑む松本青果店・松本恵美子さん/⑦「子飼商店街」で商って60年、「双葉寿司」の安田幸宏さん・紀子さんご夫妻/⑧「らぁめん臨機」店主の中川原堅一郎さん。商店街活性化に熱い思いを抱いている/⑨「高光金物店」店主の高光守康さん。「おしゃべりを楽しんで、お得な情報をゲットしてほしい」と話す/⑩「高光金物店」イチオシの木製急須

笑顔と四季の彩りあふれる レトロで新しい商店街。

商店街を支える思いを一つに ボランティアでまちに活力を

「子飼商店街」を歩くたびに感じることはありません。どうしてここには故郷のようなぬくもりに満ちているのだろう、と。

6月3日(土)朝10時、この日は3カ月に一度の「子飼100円笑店街」の日。それぞれの店のお薦め商品が100円で提供されるとあって、早くも大勢の客でにぎわっており、すでに売り切れた商品もあるほどです。

子どもたちの楽しそうな声の先には、スーパーボールすくいや輪投げなどのコーナーも。笑顔で子どもたちと接する若者たちに声を掛けると、熊本大学法学部 高木康衣准教授研究室のゼミ生と教養教育「ボランティア実践」を履修する学生たちでした。人気の「100円笑店街」や、ライトアップされた風情を楽しめる「日夜祭」などのイベント時に、講義の一環としてボランティアで運営を手伝っています。

平成28年熊本地震をきっかけにボランティア活動に興味を持ったという法学部法学科3年の山本 祐貴さん。「『子飼商店街』での活動でさまざまな気付きを得ることができています。ボランティアは“心”。

最も優しく思いやりを持った行動だと思う。誰かのために行動する喜びを感じています」。

商店街になじみのない学生たちも 法的な視点を持って、動く

聞けば、高木准教授のゼミでは2022年から商法・会社法の観点を持ちながら、持続可能な「子飼商店街」のあり方について研究しているのだとか。「熊本は人口の割には大企業が少なく、多くの中小企業に支えられています。事業承継や世代交代など、さまざまな課題に直面する『子飼商店街』を研究フィールドとすることで、中小企業の実態調査や企業価値創造に向けて考察を深めることにつながります」と語る高木准教授。「単に寄り添うだけのボランティアではなく、商店街の活性化のために、自分たちがどのような行動をすればいいのかという視点を持ちながら活動してほしい」と学生たちにエールを送ります。

しかし、今の学生やその親世代は大型ショッピングモールなどで買い物するのが主流。“商店街”になじみのない学生たちは、当初戸惑っていたものの、今では店



ゼミ生が、商店街に関するアンケートを収集。協力した人には綿菓子や無料でプレゼント



「子飼商店街の魅力や価値を言語化し、未来につなぐきっかけを見つけた」と語る高木准教授



「まちという器を時間とともに流動する人・モノ・価値の中には不変のものがある。それを見極めて活性化の力にしたい」という和泉さん

主にさまざまな提案を持ち掛けるなど、法的な視点を持ちながら、商店街の活性化に関わるようになりました。それが店主たちとの交流を生み、さまざまな展開が生まれています。

若き建築家と学生の協働で 商店街をもっと元気に

高木准教授が「子飼商店街」に興味を持ったのは、「株式会社urban direction」代表・和泉 秀さんの活動がきっかけでした。熊本大学大学院で建築を学んだ和泉さんは商店街に「陽月堂」というカフェをつくり、学生や地域の人が気軽に交流できる場を提供し、商店街の活性化に取り組んでいます。「『子飼商店街』には、若者が好むような店やイベントが少ない。だからこそ、若い世代が主体となって商店街に関わることで、その魅力を掘り起こし、パワーも生まれてくる。学生たちがこの場所に来てくれることに意義がある」と、和泉さんはその活動を評価します。

とはいえ、この「子飼商店街」をはじめ、多くの商店街の現実や未来は、決して明るいものだけではありません。

資本主義的な競争に勝つことが 企業の価値なのか?

商店街には熊本地震で被災したり、事業承継がうまくいかないなど、さまざまな理由でシャッターを閉ざした店が増えています。ある店主は「平日の昼間は静かなもんよ、昔の賑わいはなくなってしまった。店主の中には、自分たちの代で店が終わればよかて思ってる人も多かけど、商店街には商店街の役割があるけんね。こうやってお客さんと冗談を言いながら商うのが商店街の一番の楽しさ。それを若い人も巻き込んで、つなげていきたいね」と話してくれました。

高木准教授は、厳しい「子飼商店街」の現実と関わることで新たな視点が生まれたといいます。「企業の理想の姿は、合理的かつ効率的に利益を上げることだと私自身が学んできたし、学生にもそう教えてきました。でも、ここに関わるようになって資本主義的な競争に勝つことだけが、企業の価値ではないのではないかと考えるようになりました」。

さらに高木准教授は、言葉をつなぎます。「ボランティア実践で地域の役に立つ

喜びや達成感を得た学生たちは、表情から変わっていきました。受け身だった学生も、今では積極的に携わっています」。

コミュニティを愛する人たちが、紡いでいく「子飼商店街物語」

ボランティアに汗を流す学生たちに声を掛ける店主たちのうれしそうな笑顔が、商店街のあちこちに咲いていきます。「若い世代が商店街に足を運んでくれて、ありがたか。私たちが踏ん張らんといかんね」と、店主たちが、お客を呼び込む声にも力がこもります。

店主たち、和泉さん、高木准教授と学生たち……この通りで出会った誰もが、商店街の課題や未来を真剣に考えて行動していることを感じました。

すでに子飼商店街ファンの方はこれからも、子飼商店街で買い物をしたことがない方も、個性あふれる店主たちに会いに、商店街を訪れてみませんか。

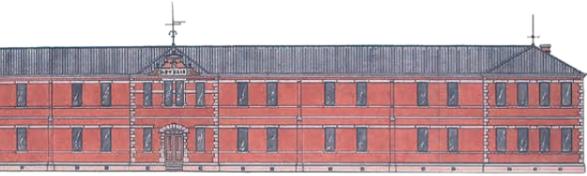
子飼商店街の情報は
こちら

GRADUATE JOURNAL

大学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦労

そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介いたします。



後藤 健征

Kensei GOTO

- ▶ 大津町立室小学校(熊本県)
- ▶ 教育学部小学校教員養成課程/2010(平成22)年3月卒業
- ▶ 大学院教育学研究科修士課程学校教育実践専攻/2012(平成24)年3月修了

Profile—

1987(昭和62)年生まれ。熊本県阿蘇郡南阿蘇村出身。熊本県立熊本北高等学校卒業。おいしい料理やビールと出会うことが楽しみです。

熊大主催の講習で 学び続ける価値を実感

小学校教諭として働き始めて、10年が経ちました。子どもたちと共に過ごす毎日はあるという間に過ぎていきます。2022(令和4)年に熊本大学主催の社会教育主事講習を受講し、「社会教育士」の資格を取りました。講習を通して、学び続けることの大切さと良さを改めて感じました。

出会いが人生を切り拓いてくれた

学生の頃から、熊本大学(教育学部)を会場にしている授業研究サークルに参加しています。人と出会うことで自分の進む道が切り拓かれたように思います。大学は、多様な人や知識と出会い、何度も学び直しができる場所だと思っています。

教育学系

“学び直し”ができる
問いを学ぶことができる場所



西田 健人

Kento NISHIDA

- ▶ 協和キリン株式会社 富士リサーチパーク(静岡県)
- ▶ 薬学部薬学科/2015(平成27)年3月卒業
- ▶ 大学院薬学教育部博士課程医療薬学専攻/2019(平成31)年3月修了

Profile—

1991(平成3)年生まれ。熊本県葦北郡芦北町出身。私立秀岳館高等学校卒業。趣味はゴルフ。

研究にどっぷりハマって研究職へ

薬剤師になることを夢見て、薬学部に入學。学部生時代に授業や実習を受ける中で、薬剤師以外にも活躍の場があることを知り、一時はMR(医療情報担当者)を目指しましたが、その後研究室での研究活動にどっぷりハマり、大学院博士課程へと進学。製薬会社の研究職を志望し、現在に至ります。

人生の財産となるつながりを大切に

熊大にはやりたいことに打ち込める環境がありました。中でも研究室の先生方、先輩、後輩は、人生の節目で私の背中を押してくれるとても大きな存在であり、今でもつながりを保っていることを誇らしく思います。人生の財産となる繋がりをたくさん作って卒業してください。お互いの存在が力になります。

薬学系

多様な人々や知識に
触れることができるから
本当にやりたいことが見つかる



益永 聡志

Satoshi MASUNAGA

- ▶ 株式会社 肥後銀行(熊本県)
- ▶ 工学部数理工学科/2012(平成24)年3月卒業
- ▶ 大学院自然科学研究科博士前期課程数学専攻/2014(平成26)年3月修了

Profile—

1989(平成元)年生まれ。大分県竹田市出身。独立行政法人国立高等専門学校機構 大分工業高等専門学校卒業。趣味はゴルフ、特技は娘とのゲーム対戦で絶妙な負けを演じること。

金融の数学的理論を学び、夢を実現

金融系の職業に憧れ、複雑な金融商品を扱える人材になろうと思い、高専から工学部数理工学科へ編入しました。熊大の博士前期課程では確率論を専攻し、金融の数学的理論の一部を学びました。現在、銀行の資金運用部門にて、有価証券の運用業務を行っています。

学生時代の努力は必ず花開く

大学時代に授業やゼミで学んだ知識を現在の仕事に直接生かすことができ、平凡な学生ながらも「あの時、頑張ったよかったなあ」と、当時に振り返って思います。学業で苦しい時もあるかと思いますが、後々の自分に必ず返ってきますので、めげずに勉学に励んでください!

工学系

魅力的な先生方の存在や、
研究環境が
充実しているところ!



小原 隆史

Takafumi OBARA

- ▶ 岡山大学学術研究院医歯薬学域 地域救急・災害医療学講座(岡山県)
- ▶ 医学部医学科/2012(平成24)年3月卒業

Profile—

1984(昭和59)年生まれ。熊本県合志市出身。私立熊本学園大学付属高等学校卒業。医学博士、日本小児科学会指導医、日本集中治療専門医。趣味は水泳、ダイビングなどの水遊び。

重症小児患者の診療から研究まで

元来、子どもが好きで、学生の頃から小児科医を志し、医師になってからは、小児の救急・集中治療を専門にしています。2020年より一旦熊本を離れ、岡山の高度救命救急センターにて、重症小児患者への診療とデータベースを用いた臨床研究、医療ガスに関する基礎研究に取り組んでいます。

大学での学びが今の自分の後押しに

学生時代は水泳部に所属し、先輩・後輩、他大学の学生など、今でも刺激し合えるよい仲間を作ることができました。急性期医療の現場は壮絶な面もありますが、そのような時に踏ん張れるのは同じ状況で頑張っている仲間の存在です。皆さんも一つひとつの出会いを大切に、充実したキャンパスライフを過ごしてください。

医学系

山や海などの自然の豊かさ
と
利便性抜群!市街地への
アクセスの良さ!



木村 千裕

Chihiro KIMURA

- ▶ 長崎県立鹿町工業高等学校(長崎県)
- ▶ 文学部文学科欧米言語文学コース/2018(平成30)年3月卒業

Profile—

1995(平成7)年生まれ。長崎県諫早市出身。長崎県立諫早高等学校卒業。趣味は絵を描くこと、旅行、御朱印巡り。

社会で必要な多彩な力を生徒たちに

地元長崎の公立高校で国語教諭として働き、今年で5年目になります。授業や部活動(放送部)の中で生徒と対話しながら、社会で必要な語彙力や思考力、コミュニケーション力をどう身に付けさせるかを常に考えています。忙しい日々ですが、にぎやかな生徒たちと過ごす毎日とても充実しています。

海外視点が日本語等を見つめる「鏡」に

Wer fremde Sprachen nicht kennt, weiss auch nichts von seiner eigenen. (外国語を知らぬ者は、自分自身の言語についても何も知らない)「国語教師になるのに、ドイツ語勉強していいの?」と悩んでいた私に外国語を学ぶ意義を教えてくれた、ドイツの文豪ゲーテの言葉です。他言語や文化から得た視座や考え方が、今、日本語や日本文学を見つめる「鏡」になっています。

文学系

語学や留学、ボランティア、
新しい自分の扉を開ける
チャンスがたくさん。



山下 克哉

Katsuya YAMASHITA

- ▶ 熊本県健康福祉部長寿社会局高齢者支援課(熊本県)
- ▶ 法学部法学科/2016(平成28)年3月卒業

Profile—

1993(平成5)年生まれ。熊本県玉名市出身。熊本県立玉名高等学校卒業。趣味はバスケットボールや温泉巡りなど。1児の父として育児にも奮闘中。

多岐にわたる分野で故郷に貢献

地元熊本へ貢献したいとの思いから県庁を志望し、大学時代に公務員講座を受講。入庁後は、阿蘇地域振興局(用地取得)、交通政策課(航空行政)を経て、現在は高齢者支援課(介護施設整備等)に勤務しています。多岐にわたる分野、また人と携わりながら仕事をできることが熊本県庁の魅力です。

学生時代は、やりたい分野に 飛び込んで!

ゼミ活動の一環で、アメリカへ研修に行き(英語は全く話せませんが、笑)、地方自治を学んだことが、学生時代の有意義な経験として心に残っています。気軽に自分のやりたい分野に飛び込んでいけることが、学生生活の醍醐味だと思いますので、熊大生活を思いっきり楽しんでください!

法学系

行動力とブレない芯を持った、
人としての魅力に満ちた
学生が多い



大曲 仁美

Hitomi OHMAGARI

- ▶ 青山学院大学理工学部化学・生命科学科助教(神奈川県)
- ▶ 理学部理学科/2014(平成26)年3月卒業
- ▶ 大学院自然科学研究科博士後期課程/2019(平成31)年3月修了

Profile—

1990(平成2)年生まれ。佐賀県西松浦郡出身。佐賀県立武雄高等学校卒業。ナノサイズの分子を組み合わせ、多機能性を示す材料を創る錯体化学に魅了され、研究者の道へ。趣味は海釣り。

先輩や先生の姿勢に魅せられ研究者に

学部で卒業し、企業に就職予定でしたが、大学院の先輩や先生の研究に対する姿勢と、新しいものを生み出す機能性錯体化学分野に魅了され、研究者の道を目指しました。現在は青山学院大学で助教として、スタッフや学生たちと共に日々研究を進めています。

固定観念に捉われない自由な発想で挑戦

「オリジナリティをもつこと」は私が学生時代から大切にしている恩師の言葉で、今もその言葉をモットーに新しい発見を求めて日々研究に取り組んでいます。学生の頃はまだ自由な発想があります。固定観念に捉われず、自分自身をよく知り、楽しみながら自身のオリジナルを探してみてください。

理学系

一人暮らしでも安心なサポートあり
部活&サークル活動も活発で
キャンパスライフが充実!

Info

第16回「熊本大学東光原文学賞」作品募集!

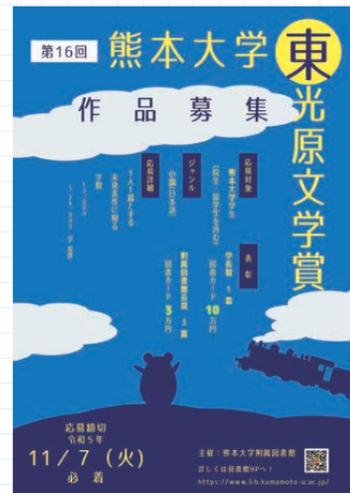
「熊本大学東光原文学賞」は、本学の学生(大学院生、留学生を含む)を対象とした文学賞です。あなたの中にある星のように輝く言葉を「文学賞」で伝えてみませんか? たくさんのご応募をお待ちしています。

受賞作品は、3月に作品集冊子として刊行し、図書館HPで公開しますので、本学学生の力作小説をお楽しみください。

◎学賞賞/1編(副賞:図書カード10万円)
◎附属図書館長/3編(副賞:図書カード3万円)

●作品応募締切/11月7日(火)17:00必着
●発表・表彰式/令和6(2024)年1月12日(金)10:30~

※時間は変更になる可能性があります
※どなたでも参加できます ※参加無料



●応募資格/本学学生(大学院生・留学生を含む)
●ジャンル/小説(日本語)
詳細は下記ウェブサイトを参照
URL <https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/5814>



Info

第38回熊本大学附属図書館貴重資料展「甦る歴史資料群—修復された絵図・古文書展—」を開催します

第38回の貴重資料展では、直近5年間に一流の職人たちの手によって甦った貴重資料の数々を公開します。近世初期の名古屋城や駿府城の普請現場における加藤家・細川家の役割、キリシタン禁圧や原城落城後の状況を生々しく語る文書・絵図の数々、大名領を越えて移住する百姓たちの姿、熊本藩政の実像を示すバラエティーに富んだ諸史料など、多くの初公開資料を展示します。2日目(11月3日)は講演会を開催します。多数のご来場をお待ちしております。

貴重資料展
●日時/11月2日(木)~4日(土) 10:00~17:00
●場所/熊本大学附属図書館(中央館) 1階 古文書閲覧室

公開講演会 第17回永青文庫セミナー
●日時/11月3日(金・祝) 14:00~15:30
●場所/熊本大学附属図書館1階 ラーニングcommons
講演①「古文書修復の実践と知見の蓄積」
講師: 藤井良昭 (修理工房 宰匠株式会社 代表取締役)
講演②「甦る歴史資料群—近世初期細川家の「御国」と「公儀」—」
講師: 稲葉継陽(熊本大学永青文庫研究センター長 教授)

●参加対象者/どなたでも参加できます
※事前申込不要
※参加無料(定員130名、当日先着順)

【お問い合わせ】
熊本大学附属図書館
Tel.096-342-2212
URL <https://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/5847>



Info

クラウドファンディングをはじめます! ~夢の実現にご支援を~

本学では、教育・研究、社会貢献、国際交流、学生団体等のプロジェクト資金をインターネットで募る「クラウドファンディング」を創設いたしました。今後、教職員や学生等が成し遂げたい夢・活動を発信して参りますので、想いに共感し応援したいというプロジェクトがございましたら、温かいご支援をお願い申し上げます。詳細は、下記ウェブサイトをご覧ください。10月より第一弾(附属図書館)が始動します!

【お問い合わせ】
熊本大学基金・同窓会事業室
Tel.096-342-3129
E-mail kik-doso@jimu.kumamoto-u.ac.jp
URL <https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/kinds/kind06/>



Info

IROASTシンポジウム ~自然を知り、共生する未来につなぐ最先端の防災・減災研究~を開催

国際先端科学技術研究機構(IROAST)の研究者が行っている安全・安心社会の構築や防災・減災に関する国際研究の成果と今後の展望を紹介します。

●日時/11月21日(火) 13:30~15:30
●場所/熊本大学工学部百周年記念館 およびオンライン(Zoomウェビナー)によるハイブリット形式
●参加対象者/どなたでも参加できます
※下記ウェブサイトより要申込
※参加無料 ※後日、講演動画を配信

【お問い合わせ】
自然科学系事務課
IROAST担当
Tel.096-342-3362
E-mail szk-kiko@jimu.kumamoto-u.ac.jp
URL <https://iroast.kumamoto-u.ac.jp>



Info

第4回くまもとの健康と地域づくりを考える会研修会 ~ヤングケアラーの支援と連携・協働~を開催します



県内外で活躍する保健師等看護職がつながり学び合うことを目的とし、今年度はヤングケアラー支援の実際と課題についての研修会を行います。

●日時/10月14日(土) 13:30~15:30
●場所/熊本大学医学部保健学科E棟 506教室
●参加対象者/専門職・職員・学生・その他か本テーマに関心がある方
※要事前申込 ※参加無料

【お問い合わせ】
熊本大学大学院
生命科学研究所
健康科学講座 谷川千春
Tel.096-373-5477
E-mail tanigawa@kumamoto-u.ac.jp



Info

理系のロールモデル講演会を開催します

本学理学部OGや現役女子学生が、理系に進んだきっかけや理系の仕事の楽しさ・やりがいなどを伝える講演会。講演会後にはサイエンスカフェにて座談会を行う。

●日時/11月23日(木・祝) 13:30~16:00
●場所/熊本大学工学部2号館(黒髪南地区)
●参加対象者/中高生、保護者、教員
※下記ウェブサイトより要事前申込
※参加無料

Info

第16回熊本大学ホームカミングデーを開催します



卒業生と学生・教職員との相互交流ならびに母校との絆を深めてもらうことを目的として開催します。大学の近況報告、学生サークルの活動紹介を予定しております。

●日時/11月4日(土) 15:00~17:00
●場所/工学部2号館223講義室(学長講話) 工学部百周年記念館(交流会)
●参加対象者/卒業生
●会費/2,000円(交流会参加者のみ)
※要事前申込、下記ウェブサイト参照

【お問い合わせ】
熊本大学基金・同窓会事業室
Tel.096-342-3129
Fax.096-342-3280
E-mail kuma-hcd@jimu.kumamoto-u.ac.jp
URL https://www.kumamoto-u.ac.jp/sotugyosei/sotsugyousei/home_coming/dai16kai-reiwa5/16



Info

熊本大学 ヒトレトロウイルス学共同研究センター 第二回進学OPEN LAB.

本センターの紹介・サイエンスカフェ・研究室見学を行います。新企画として生化学実験操作、細胞培養操作といった実験体験も予定しています。

●日時/12月16日(土) 13:00~(開場12:30)
●場所/熊本大学本荘中地区 ヒトレトロウイルス学共同研究センター
●参加対象者/進学に興味のある大学生・大学院生・高校生など先着30名
※下記ウェブサイトより要申込
※参加無料

【お問い合わせ】
ヒトレトロウイルス学
共同研究センター 広報担当
E-mail huretropv@gmail.com
URL <https://kumamoto-u-hrc-virop.wixsite.com/website/about-2>



【お問い合わせ】
熊本大学
教育統括管理運営機構 入試・就職戦略室
E-mail admissions-office@jimu.kumamoto-u.ac.jp
URL <http://hqac.kumamoto-u.ac.jp/GIRLS/>

Report

日比野東京藝術大学長・熊本市現代美術館館長が来訪



6月21日、日比野克彦東京藝術大学長・熊本市現代美術館館長が本学を来訪されました。小川学長の案内で、工学部研究資料館や表門(赤門)などの歴史的建造物をご覧いただき、重要文化財五高記念館へ。創建当初の黒板が残る展示室で本学が推進するキャンパスミュージアム構想について意見交換が行われました。日比野学長から「文化財は保存するだけでなく、活用していくことが一番大事」とのご意見をいただきました。その他、アーティストである日比野学長ならではの新しい視点、価値観で展開する大学とアートの在り方なども提言され、今後両大学での交流促進、連携が期待されます。

Report

「輝け!ヤングアーティスト 君もピカソに!」に、本学学生が出演・社長賞を授与されました!



7月1日、「輝け!ヤングアーティスト 君もピカソに!」〜バルビゾンプロジェクト〜のメセナ支援金贈呈式および出演作品のお披露目式が熊本市の「アンドコンフィ ホテル 熊本城ビュー」で開催されました。本事業は、同ホテルがメセナ*の一環として、アートの発信をコンセプトに、熊本の若いアーティストを支

Report

第9回熊本大学東京連合同窓会を開催しました



5月27日、「東京ガーデンパレス」(東京都文京区)において、「第9回熊本大学東京連合同窓会」を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け4年ぶりの開催となった今回は、関東地区の同窓生、同窓会本部の関係者および大学関係者143名が参加しました。当日は、総会ならびに小川 久雄学長および三澤 純五高記念館館長の講演会の後、交流会が行われ、参加者は賑やかに世代や学部を越えた交流を楽しみました。また、交流会の中盤では、恒例となっている応援団による「マーチングメドレー」「巻頭言、五高寮歌」が披露される等、盛況のうちに本同窓会は終了しました。

URL <https://www.and-comfy.jp/kumamotojo-view/society/>

*メセナ…企業が資金を提供し、文化・芸術活動を支援する社会貢献活動。

Report

SSH指定校 天草高等学校が熊本大学で研修を行いました



6月15日、天草高等学校の1年生約210名が本学を訪問し、研修を行いました。スーパーサイエンスハイスクール(SSH)は、将来国際的に活躍しうる科学技術人材の育成を図るため、先進的な数系教育を実施する高等学校等を文部科学省が指定するもので、天草高等学校は平成29年度から指定を受けています。今回の研修は、研究手法について学び、今後の生徒たちの課題研究に生かす能力を養うことが目的で、生徒たちは本学の各キャンパス(黒髪・大江・本荘キャンパス)および合津マリンスターションで実習等を行いました。

Report

タイ王国コンケン大学医学部長らが本学を表敬訪問

6月8日、タイ王国コンケン大学Apichat Jiravuttipong医学部長ら6名が、小川学長を表敬しました。一行は表敬訪問後、五高記念館・化学実験場を見学しました。コンケン大学と本学は、2004年に大学間交流協定を締結し、来年で20年になります。この間多くの交流が生まれ、現在、医学教育部のダブルディグリープログラムでは4名のコンケン大学の大学院生が学んでいます。6月9日、一行は医学教育部を表敬訪問し、同教育部からSopit Wongkham教授に長年の大学間交流への貢献に対して感謝状が贈呈されました。



Report

理系のロールモデル講演会を開催しました

7月22日、大学教育統括管理運営機構入試・就職戦略室は、「理系のロールモデル講演会」と「サイエンスカフェ」を開催しました。講演会では、理系分野で活躍している社会人講演者として、本学大学院生命科学部の中村五月准教授、本学の理学部OGで「日清紡ホールディングス株式会社」に就職された山根梨代さんが女性のキャリア形成について講演。学生講演者として教育学研究科教職大学院の松浦佳純さん、自然科学教育部の高日亜央衣さん、薬学教育部の原田夏帆さんが理系進路選択の経験や大学で研究を励んでいる内容について話してくれました。

またサイエンスカフェでは、理系の各学部・学科の現役女子学生がアドバイザーとなり、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で中高生の進路相談を行いました。入試・就職戦略室では今後も、女子中高生の理系進路選択を支援するイベントに取り組んでいきます。



Report

「内密出産」をテーマにシンポジウムを開催しました

6月17日、人文社会科学研究部(法学系)は、シンポジウム「内密出産の現状と課題—子どもの出自を知る権利を中心に—」を開催しました。本シンポジウムは、法学部附属「地域の法と公共政策教育研究センター」(略称エルベルク)の活動の一環として行われたものであり、学生や一般の方など約100名と多数の報道機関が参

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。 No.63(令和5年5月1日～令和5年7月31日)

皆様から、これまでに約18億1597万円(令和5年7月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。熊本大学基金に対しまして深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今号では、令和5年5月1日から令和5年7月31日までの間に入金を確認させていただきました個人95名、10法人・団体のすべての寄附者の皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

皆様のさらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【100万円】	有限会社坂本石灰工業所(310)		
【50万円】	熊本医学会(550)		
【20万円】	小川 久雄(80)		
【5万円以下】	犬童 正仁(2)	猪俣 紘一郎(31)	近藤 光弘(5)
	宮本 真次(8.1)	村瀬 弘幸(5.1)	本島 昭男(29)
	矢原 幸治(6)		

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

安部 省司[5]	安藤 政治[3]	家村 和千代[7]	岡本 哲夫[3]
甲斐 晃弘[1]	上城 洋一[6]	河村 久幸[5]	木村 純久[10]
木村 英美[1]	楠田 靖紀[2]	倉津 純一[5]	児倉 静二[15]
眞田 功[3]	下田 恵美子[7]	谷口 秀男[8]	坪井 健児[4]
戸上 勝喜[3]	永井 陳雄[4]	長谷 政晴[2]	西島 須恵子[1]
西濱 秀樹[2]	波多野 恭行[29]	馬場 秀夫[20]	林 和徳[3]
吹上 安伸[4]	福田 俊幸[8]	藤好 建史[5]	本多 邦雄[13]
松岡 重孝[4]	松本 義幸[5]	水島 多美也[2]	
株式会社ダイヤモンドブルーイング[1]		熊本大学医学部医学科後援会[29]	
KMバイオロジクス株式会社[4]			

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人53名、5法人・団体

基金の取り組み事項については、基金ウェブサイトに掲載しております。

熊本大学基金ウェブサイト

URL <https://kikin.jimu.kumamoto-u.ac.jp/>

熊本大学基金 🔍



加されました。当日は、内密出産制度に関する日独の研究者および弁護士、また、慈恵病院(熊本市)に設置されている「このとりのゆりかご」に預けられた当事者の方がパネリストとして登壇され、報告および意見交換がなされた後、参加者からの質問も活発に行われました。



キャンパス
ミュージアム散策

絵・文 / 松永 拓己

大学院教育学研究科
教授・芸術家

熊薬ミュージアム

産業イノベーションラボラトリー
(薬草ミュージアム、フェルメール リ・
クリエイト)

薬用植物園(薬草パーク)

熊本市中央区大江本町5-1 入場無料
★見学受付・お問い合わせは、下記メールアドレスまで
kumayaku-vm@jimu.kumamoto-u.ac.jp
★ただし、薬用植物園は随時開放のため、見学自由
交通機関 / バス・熊本市電をご利用の場合、
「味噌天神」バス停・電停下車徒歩1分
★イラスト画はヨハネス・フェルメール作「真珠の耳飾り
の少女」を参考資料として制作

薬とは。心身に効く薬とは。

熊本大学内の小道をゆく。

味噌天神前バス停からすぐの所に、薬学部の熊薬ミュージアム、産業イノベーションラボラトリー、薬用植物園がある。

季節ごとに生い茂る草花や木々の茂みの中の解説板を見ながら構内をグルリと回ってみる。香^{かぐわ}しい。館内では樹皮や草などが珍重され、戦前からの文物が置かれている。散策しながら、「薬とは」と問いかけるに丁度よい。

そして、産業イノベーションラボラトリーでは、ヨハネス・フェルメールのリ・クリエイト全37作品らが出迎える。……薬と美の競演とは、こういうことかと合点がいく。身体を健やかにさせる「お薬」は、どうやら精神からも届けることが何よりなのであろう。研究・開発にもその効能をとでも言うかのように、知的で美的で刺激的な空気の薬が漂う環境がそこにあった。ふと一枚の曼陀羅^{まんだら}図に目が留まる。ブータン国との国際交流による作品とのこと。中央には仏教の薬師(瑠璃光)如来像が描かれている。昔も今も薬師さんは衆生の病を取り除き、健やかなれということなのか。

ゆっくり優に1時間は浸っている。「世に無駄な雑草などあるのかしら」フェルメールの絵が振り返って何かを語ってくれているようだ。ここには熊本大学薬学部の前身である「蕃^{ばん}滋^じ園^{えん}」(宝暦6(1756)年)から携わった人々と文物の歴史と美がある。

